

外間哲弘さん、アメリカで空手の殿堂入り

北米の著名な空手家達によって組織される「世界黒帯者登録組織連盟協会」の認定する空手の殿堂に、外間哲弘さん(字上原、写真右)が選ばれました。この殿堂は、空手、古武道に対して深い見識があり、国内外で著しい業績を残した武術家に対して認定されるもので、外間さんはこれまで指導者として42カ国を訪れ、約7,000名の空手の指導にあたってきました。著書は20冊、DVDは17本にのぼり、海外で翻訳、販売されているものも多いとのこと。また、「沖縄県空手博物館」を上原に自費で建設し、空手関係の膨大な資料を保管する運動にも取り組んでいます。



外間さんは殿堂入りを喜ぶとともに、自身の所有する貴重な資料を「後の世代に残していきたい。」と今後の抱負を語りました。

西原高校、バレー・バスケット・マーチングで全国へ

西原高校が第54回全沖縄高校バスケットボール選手権大会の女子の部で3年ぶり5回目の優勝。12月に東京都で開催される第42回全国高校選抜優勝大会(ウィンターカップ)への出場を決め、川上美嬉さん(2年)は「3年の先輩と一緒に上位を目指したい。」と抱負を述べました。

また、バレーボールの第64回全日本高校選手権大会(春高バレー)の県予選大会では男女ともに優勝。男子は2年連続17回目、女子は3年連続3回目の頂点に立ち、1月5日から東京都で開催される全国大会へ出場します。男子の金嶺守陸くん(3年)は「3年にとって最後の大会。練習の成果を出せるよう練習をがんばりたい。」と、女子の仲間翔子さん(3年)は「上位を狙って、全国大会で沖縄旋風を起こしたい。」と意気込みを語りました。

11月3日に開催された第24回マーチングインオキナワ2011ではマーチングバンド部が金賞を受賞、12月18日に埼玉県で行われる全国大会に県代表として出場が決まりました。宮里さやかさん(3年)は「周りで支えるみなさんに対する感謝の気持ちを持って、大会に臨みたい。」と喜びを口にしました。



まちの話題

「与那城汗っかき会」が地域貢献賞を受賞

地域で子どもたちの見守り活動を続けている「与那城汗っかき会」(大城誠一会長)が第4回沖縄タイムス地域貢献賞を受賞、10月15日に表彰を受けました。同会は今年で結成7年。これまで、地域の中学生や高校生らと大人と一緒に、見回りや声かけする運動に取り組んできており、現在は約30名で活動しています。大城会長は「大人と子どもと一緒に汗をかく活動してきた。結成当時は子どもだったメンバーが成人しても活動を続けてくれる。」と継続してきた成果を語りました。



受賞の報告を受けた波平常則教育長は「子どもたちと一緒に汗をかくことの大切さを感じた。地域の子供もは地域のみんで守るという活動の見本になる。」と喜びました。

戦没者に祈りをささげ、恒久平和を願う —西原町戦没者追悼式が挙行される—

「平成23年西原町戦没者追悼式」が10月28日、西原の塔で行われ、町内外から多くの遺族や関係者が参加、西原町で犠牲になった戦没者の冥福を祈るとともに、恒久平和を願いました。式を前に、西原小学校5年生の児童が折った千羽鶴をささげました。

式では町遺族会の與那城博司会長らが出席。與那城会長は「時代が流れ、戦争の悲惨さや平和のありがたさが忘れ去られないよう、後世にしっかり伝える。」と追悼の言葉を述べました。また、西原に配属された日本軍の部隊



で、多くの仲間を失った元隊員の代表者も県外から参列し、焼香とともに祈りをささげました。

西原町史の集大成 第1巻「通史編」が完成

1977年から始まった西原町史の編集事業の最終巻として「通史編」が完成、10月28日に発表しました。西原町史は町の歴史を幅広く町民に知ってもらい、後世に正しく伝える目的で編集が進められ、「通史編」の完成により、西原町史は全9巻と4冊の付属刊物が揃ったことで、町史編集事業が完了しました。上岡明町長は「多くの町民に愛読してもらい、町民としての自覚や誇りを再認識し人材育成の一助になることを願う」と喜びを語りました。

「通史編」は2007年に発刊計画がまとまり、編集委員会や専門部会などの会議を重ねて内容の充実が図られました。西原の歴史や文化を総合的に記述し、その変遷が写真や絵、図表を用いて分かりやすく表現されています。(詳細は18ページ「町史だより」を参照)



西原町児童館フェスティバル 「遊びのがんばりめ トッカン!行かん?児童館!」開催

町内の3つの児童館が合同で、「わくわく!ドキドキ!遊びの国へ出発だー!」をテーマに西原町児童館フェスティバル「遊びのがんばりめ、トッカン!行かん?児童館!」を10月8日、町社会福祉センターで開催しました。

オープニングイベントでは、大型紙芝居「さわふじの木のうた」や小那覇子ども会によるエイサーなどが披露され、子どもたちが繰り広げるステージに歓声が上がりました。

また各児童館が企画したコーナーが催され、来場者は思い思いにゲームやものづくり、バザーなどを親子で楽しむ笑顔があちこちで見られました。特設コーナーでは来場者が協力して折り紙を「手つなぎハート」の形に折り、キャンパスに張り合わせて一つの作品を製作。被災地支援の気持ちを共有しました。(作品は福祉部福祉課に掲示しています。)



秋の夜長に読み聞かせ 「あつとーめーのささやき」

町内小中学校の読み聞かせサークルのネットワーク団体「読みあいネットワーク喜楽星7(比嘉清美代表)」が主催する「第7回あつとーめーのささやき」が、10月10日に町立図書館で開催されました。あいにくの雨模様のため会場が園庭から図書館ホールに変更されましたが、夜のイベントらしく、月や星に関する絵本や紙芝居などの読み聞かせが行われました。民謡歌手の知念こずえさん(字兼久)によるミニコンサート(写真)では、安里屋ユンタなどおなじみの曲が披露され、参加者も一緒に口ずさみながら楽しめました。



県外派遣費用の助成金を交付 —西原町人材育成会—

西原町人材育成会(上岡明会長)は、城間亮太くん(坂田小5年)に対して、派遣費用の一部助成を決定しました。城間くんは第31回新報児童オリンピック大会のバドミントン競技で準優勝し、10月28日から第28回全九州小学生バドミントン選手権大会への出場が決まり、大会が開催される熊本県に派遣されました。



消防団大会で西原町分区が大活躍

消防団員の消火技術の向上を図るため2年に1度行われる第30回南部消防操法大会が10月7日に糸満市で開催されました。個人で争う着装競技の部では、東部消防組合西原町分団の與那嶺良也さんが優勝しました。3人1組で争う応用訓練の部でも、西原町分団の団員で構成された東部消防組合消防団チームが優勝し、南部代表で出場した第22回沖縄県消防操法大会でも準優勝を収める活躍でした。

